船橋市 農委だより

FUNABASHISHI NOUIDAYORI

平成31年（2019年） 1/1 第97号 年2回発行

発行 船橋市農業委員会
編集 農委だより編集委員会

〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号
TEL 047（436）2742～5
URL http://www.city.funabashi.lg.jp（船橋市役所）
e-mail nogyo@city.funabashi.lg.jp

親子２代で農林水産大臣賞を受賞した船橋市大穴北の豊田大輔さん。

梨づくりに本格参入して６年、品種改良を含めて技術水準が高くなっているが、行き着くところは「味」。

「人の思い出の背景になれるような美味しい梨を作り続けていきたい」と抱負を語ってくれました。

詳しくは６ページ「がんばる！農家訪問」をご覧ください。

年頭のごあいさつ

船橋市農業委員会
会　長　**岡庭　一美**

新年おめでとうございます。平成31年の新春を迎え、皆様のご健勝をお祈りいたします。

また、日頃より農業委員会活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年は西日本豪雨や北海道胆振東部地震など大規模な災害が発生し、本市においても台風24号により農業に多大な被害を受けました。被害を受けた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、本市の農業は都市近郊という立地条件のもと、多品目の野菜を中心に生産を続けています。他方、耕作放棄地の増加や、近隣住民から砂塵や農薬散布などに苦情が発生するなど、農業を取巻く環境は厳しいものがございます。

農地は新鮮な農産物の供給源であるともに、緑豊かな都市景観や豪雨時の貯水機能など多様な役割を持っています。

このような農地を残し、守っていくため、私たち農業委員と農地利用最適化推進委員は、農地利用状況調査や違反転用パトロールなどの活動を行うともに、生産者自らが野菜の即売を行う農水産祭「都市農業PR」等の市民の皆様と触れ合う機会を設けるなど「船橋市の農業」の理解を深めてもらえるよう、これまで以上に努めて参ります。

最後になりましたが、平成最後の年であると共に新しい年の幕開けでもある本年が、農業者の皆様にとって実り多い年でありますことを心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

農業委員

小	池	正	一	（二和東）
湯	浅	清	春	（八木が谷）
石	井	俊	郎	（東中山）
藤	城	孝	義	（高根町）
菊	池	眞	夫	（本中山）
髙	橋	光	一	（旭　町）
齋	藤	教	子	（坪井町）
興	松		勲	（中野木）
神	山	茂	樹	（豊富町）
土	橋	博	之	（三　山）
石	山	幸	男	（馬込町）
小	川		晃	（東船橋）
金	子	一	雄	（前貝塚町）
岡	庭	一	美	（三　咲）

（議席順）

農地利用最適化推進委員

飯	島	行	雄	（金堀町）
伊	藤	栄	一	（前貝塚町）
伊	藤	賢	司	（二和東）
岩	佐	常	信	（坪井町）
織	戸		孝	（飯山満町）
櫛	田	直	樹	（飯山満町）
齊	藤	義	夫	（金　杉）
白	井	廣	司	（神保町）
平	野	恵	昭	（西　船）
藤	平	尚	志	（大神保町）
三	橋		誠	（東　町）
武	藤	英	夫	（小室町）
渡	邉	和	雄	（車方町）

（五十音順）

松戸徹　船橋市長へ

「農地等の利用の最適化の推進に関する意見書」を提出

市農業委員会では昨年９月６日に、「平成 31 年度　船橋市農地等利用最適化推進施策に関する意見書」を松戸徹船橋市長に提出しました。

意見書は次年度の市の施策に反映させることを目的に、委員や関係団体からの意見を取りまとめ、農業委員会総会で決定したものです。意見書の概要は次のとおりです。全文は HP をご覧ください。

1　農業委員会では、耕作放棄地対策に取り組んでいるが、市も、耕作放棄地を活用した事業の検討や、担い手が行う取組みへの支援等、積極的な施策を願いたい。

2　農業所得の減少は後継者不足に繋がり、耕作放棄地発生の原因ともなる。今後も農業経営の安定化や後継者及び新規就農支援等の施策拡充に、積極的な取り組みを願いたい。

　また、農地周辺の宅地化による周辺住民とのトラブルも見受けられることから、開発事業者等へ購入者に対する十分な説明を行うよう指導を願いたい。

3　学校における農業体験は、子供たちが農業や食の大切さを学ぶとともに、地元船橋への郷土愛を醸成する貴重な機会となっていることから、今後も各学校における農業を通した取り組みを積極的に進め、子供達の農への理解を図って欲しい。

　また、学校給食の食材に、引き続き船橋産の農作物や畜産物をより多く使用願いたい。

4　都市農業振興基本法において、「政府は、都市農業の振興に関する施策を実施するため必要な法制上、財政上、税制上又は金融上の措置その他の措置を講じなければならない」と規定されていることから、税制について、安定した農業経営が可能となるよう、国や関係機関への働きかけ等の検討を願いたい。

5　都市農地の貸借の円滑化に関する法律が施行されたことに伴い、生産緑地の農地としての貸借が可能となることについて、今後、農業委員会と連携して積極的な周知を願いたい。

6　農業委員は各地域の代表として、地域の農地・農業の実情を熟知していることを生かして業務を円滑に遂行してきたことから、今後も委員の選任にあたっては、これまでの経緯を踏まえた人選を願いたい。

各方面からの声をまとめた農政への意見書を岡庭一美会長から松戸徹市長へ手渡しました

農業者年金で安心・豊かな老後を

◎農業に従事する方の老後の安心に役立ちます。

国民年金＋**農業者年金**

◎こんな方が加入できます。

①国民年金第１号被保険者
②年間60日以上農業に従事
③20歳以上60歳未満の方

◎積立方式だから自分がかけた金額は年金として生涯もらえます。

仮に80歳前に亡くなった場合でも死亡一時金が遺族に支給されます。

◎保険料はいつでも変更できます。

月々２万円から６万７千円まで

◎支払った保険料は全額社会保険料控除の対象になり所得税、市県民税等の節税になります。

◎保険料の国庫補助が受けられます。

例：認定農業者等で青色申告者で35歳未満の人は10,000円（５割）補助

お問い合わせは、農業委員会事務局
047-436-2745　まで

第51回農水産祭　「都市農業PR」
船橋産農産物の即売会を開催

松戸徹市長が船橋の都市農業の素晴らしさをＰＲ

昨年11月10日、東武船橋駅コンコースで、船橋市農業委員会が主催する第51回船橋市農水産祭「都市農業PR」が、開催されました。

船橋の都市農業を多くの皆さんに知ってもらい、生産者と消費者にふれあいの場を提供することを目的に開催されるこの催し。生産者自らが農産物の販売に当たります。

10月に発生した台風24号による塩害の影響から出品数の減少が危惧されましたが、多くの農家の皆さんのご協力により、昨年以上の品数をそろえることができました。

小松菜、枝豆、ニンジン、梨といった船橋ブランドと言われるものから、シクラメン、葉牡丹といった花卉や、米、落花生、卵に至るまで、陳列された船橋産の農産物は多種多様です。

即売会が始まる10時30分を待ちきれない人たちがたくさん集まる中、坂本明弘東武船橋駅長の「出発進行！」の合図とともに即売会はスタート。多くの品物があっという間に陳列台から無くなっていき、追加、補充の連続となりました。

お客さんは、生産者と商品の説明や調理法などについての会話をしながら買い物を楽しんでおり、客足も最後まで鈍ることなく、12時30分には完売となりました。

即売会の感想を尋ねたところ、「新鮮な野菜に出会えたうれしさで、思わずたくさん買ってしまった」、「即売会があることを、たまたま通りがかって知ったがラッキーだった」、「新鮮で安い、これからも開催してほしい」などうれしい声をいただけました。

新鮮な船橋産野菜を求めてたくさんのお客さんが集まりました

農業委員ＯＢや農業モニターの皆さんにもご協力いただき、みんなで力を合わせて船橋産の農産物のすばらしさがＰＲできたことが何よりの収穫となった催しでした。

「都市農業PR」アンケート結果

◆本日の野菜即売会をどのようにして知りましたか　（複数回答可）
- 市のホームページ　11名（11％）
- 広報ふなばし　37名（37％）
- チラシ・ポスター　16名（16％）
- 通りがかり　41名（41％）

◆今までに船橋産の野菜を買ったことはありますか
- はい　95名（95％）
- いいえ　5名（5％）

◆船橋で野菜や果物など、多彩な農作物が生産されていることを知っていましたか
- はい　97名（97％）
- いいえ　3名（3％）

◆船橋の農業をＰＲする方法として、どのようなものがよいと思いますか　（複数回答可）
- 即売会等のイベントを開催する　73名（73％）
- メディアを使って宣伝する　18名（18％）
- 農業を体験できる場を設ける　29名（29％）
- スーパーに船橋産野菜のコーナーを設ける　44名（44％）

※回答者100名
ご協力ありがとうございました

船橋市の農業の未来像を探る合同視察を実施

将来、船橋市の都市農業をどの様に発展させていくべきかを研修する、農業委員、農地利用最適化推進委員、農業モニターの合同視察が、昨年10月12日に埼玉県さいたま市及び千葉県柏市で行われました。

さいたま市の視察先である有限会社若谷農園では、耕作放棄地を生かした農園経営について、また、柏市では千葉大学植物工場拠点にて植物工場の発展性等について、それぞれ説明をいただきました。

◎耕作放棄地を生かした小松菜栽培

若谷農園では、小松菜(7.3ha)を中心に、くわい(0.7ha)、水稲(0.5ha)を栽培していますが、昭和44年に代表取締役である若谷茂さんが就農した際は、くわい、水稲が中心でした。収入を安定させるために、通年で収穫できる小松菜を中心とする経営形態に変更するための大型ハウスを建てるなど、設備投資を行ったそうです。また、若手農業経営者を育てたいと考えていた若谷さんは、一緒に働く若い人に収入面で安定した環境を提供するため、平成14年に法人化することを決めました。

小松菜栽培について説明する代表取締役の若谷さん。圃場を案内する姿も活気が満ち溢れていました

法人化して間もなく雇用することとなった若者を農業者として育てるために、耕作放棄地を借りることとしました。この耕作放棄地を除草、耕耘し、小松菜を栽培できる農地として再生させ、その若手農業者に任せました。この時に行った耕作放棄地解消と若手農業後継者の育成を同時に行う取組は今でも続いています。

農園の経営の他にもさいたま市農業委員会会長を務める若谷さんのエネルギッシュな姿と、農業を通じた社会貢献を目指しているとの言葉が印象的でした。

◎工場で生産する野菜

日本の農業は、農家人口の減少と高齢化によって安定供給が出来なくなることが危惧されていることから、それに対する方策として野菜を安定的に生産する植物工場を普及させることが千葉大植物工場の目的です。

今回視察した植物工場は千葉大学柏の葉キャンパスにあり、太陽光を利用したトマト栽培6棟、人工光を利用したレタス類栽培3棟で植物栽培の実験が行われており、この他に選果・出荷棟などを加えると合計1haを超える広大な規模です。

トマト栽培棟は太陽光を利用していますが、気温、二酸化炭素、肥料に至るまでコンピューターで制御されおり、トマトの糖度管理や計画的な収穫に役立てることができるとのことでした。

人工光を利用したレタス類栽培棟は、24時間ＬＥＤの光を用いて栽培しているので、圃場で栽培するより早い期間で収穫できることが驚きでした。

植物工場なので、すべてがコンピューターで管理されており、設備は私たち農家のハウスと比べものにならないくらい高規格なものでした。

このような施設が普及するまでには、どのくらい時間がかかるか分かりませんが、気温や天気、台風などの災害に影響されずに野菜が収穫できることは農業の未来の一つの形だと思いました。

先進的な農業技術を目の当たりにして、熱心な質疑応答が行われました

がんばる！農家訪問

梨の「味」を追求する
豊田大輔さん（大穴北）

父・和彦さんから梨の味を知るには「とにかくたくさん食べること」と言われ、収穫時期には「いつも梨でお腹がいっぱい」と笑います

豊田大輔さんは現在27歳、船橋４Ｈクラブ（※）の46代会長も務めています。

大学で農業経営を学んだのち、６年前に家業である梨づくりに本格的に就農しました。祖父の功さん、父の和彦さんの築いた梨づくりの経験と知識のうえに新たな感性と技術開発を重ねて、「梨の味」を追求しています。

父の和彦さんは、「千葉なし味自慢コンテスト」において、2012年に豊水で農林水産大臣賞を受賞、大輔さんは2017年に幸水で同じく農林水産大臣賞を受賞するなど、親子２代で大臣賞を受賞するという栄誉に浴しました。さらに、昨年開催された第51回船橋市農林水産祭において、大輔さんが船橋市長賞を獲得するなど、「味の豊田梨園」を確固たるものとしています。

梨は自然物であり、肥料の配合や樹齢の変化などの他、天候によっても「味」が大きく変化するため、降水量や日射量を日々チェックしながら、水加減などに神経を尖らせているとのことです。

こうして収穫した梨の販売については約95％が直売方式であるため、お客さんのニーズの吸収には敏感にならざるを得ません。「お客様の舌はシビア」と語る大輔さんは、糖度、食感、大きさ、形などには特に気を使っており、選別する際には色や模様からこれらを判断する必要があるため、美味しい梨を見分けるために収穫時期には自ら大量に梨を食べると言います。こうした努力の積み重ねが大臣賞や市長賞の受賞につながっているようです。

また、新たな取組として、船橋４Ｈクラブでレストランとコラボレーションし、船橋産の梨を使った梨づくしのフルコースメニューを提供しており（10月下旬で終了）、軌道に乗れば東京にも進出してみたいと話すなど、新たな夢へのチャレンジも忘れません。

大輔さんに現在の心境を尋ねると、「品質を保つことの難しさを改めて痛感している」と語りつつも、収穫する梨の選別を任されていることについて「すごく嬉しいこと」と喜び、「今後も美味しい梨を作り続けていきたい」と更なる「味」の追求に意欲を見せていました。

豊田梨園の直売所には今までに受賞してきた様々な賞状が並び、美味しい梨を求めに来たお客さんを出迎えてくれます

（※）船橋４Ｈクラブ

自分たちで作った農作物を販売したり、地域を盛り上げるイベントに参加するなど、積極的な活動を進める船橋の若手農業者の集まり

農業委員・農地利用最適化推進委員になって

【農】農業委員
【推】農地利用最適化推進委員

齋藤　教子
（坪井）【農】

市場法が変わり、種子法が廃止されて、益々農業がやりづらくなりました。大切な食物を作っている農家が、活き活き働き、生活できるように、また、後継者が安心して農業を継げるような世の中にしていきたいと思います。

武藤　英夫
（小室）【推】

農地利用最適化推進委員に就任して早一年半が経ちました。推進委員としての仕事の主旨をよく理解し、耕作放棄地の解消及び遊休農地の防止等に微力ですが努めて参りたいと思います。皆様のご指導、ご協力を宜しくお願いします。

神山　茂樹
（豊富）【農】

農業委員になって、船橋の農業の現状を垣間見ると危機感がつのります。農業を止めるのは簡単ですが、継続することが大事です。多様化する現在、魅力ある船橋の農業を守り育てていきたいと思います。

櫛田　直樹
（飯山満）【推】

推進委員に就任する前から感じておりましたが、今の日本の農業は、国の政策や周辺地域の環境等に大きく左右されてしまうなど、難しい問題を多く抱えています。船橋も例外なく大変な状況ですが、頑張りたいと思います。

土橋　博之
（三山）【農】

制度変更で農業委員が14名となりましたが、後継者不在や相続等により転用申請は増えています。優良農地が減り、既存農地も薬剤散布等の苦情があり耕作が難しくなり残念です。優良農地が少しでも多く残るよう努める所存です。

伊藤　賢司
（二和東）【推】

農地利用最適化推進委員に就任しました。父から果樹園芸を継ぎ、梨の生産をしています。周辺の農地も宅地化が進み、農地の維持の難しさを痛感しています。委員会の皆様と、遊休農地問題などに取り組みたいと思います。

石山　幸男
（馬込）【農】

昨年７月に船橋市農業委員に就任しました。農家の長男として生まれ育ちましたが、農業に本格従事した経験はありません。認定農業者などプロの委員の方々が多い中で、少し異色なのかもしれませんが、船橋の農家・農業の向上に役立てるよう頑張りたいと思っております。

齊藤　義夫
（金杉）【推】

農地利用最適化推進委員に就任し、担当地区の利用状況調査等を行った結果、農地の減少、遊休農地の増加が目立ち、農業人口が急速に減っていると感じました。農業者のやり易い農業環境にしていきたいと思います。

女性農業委員も活躍しています

県内の農業委員会の内、現在、50市町で女性農業委員86人、農地利用最適化推進委員９人が活躍しています。

昨年８月には「千葉県女性農業委員の会」の会議が開催され、今後の活動計画として県内を５ブロックに分けて交流と学習をしていくことが決まりました。船橋市が属する千葉東葛ブロックでは、昨年11月に我孫子市にある農産物直売所を視察し、援農ボランティアの取組みに関して説明を受け、意見交換を行いました。

また、昨年10月に神奈川県相模原市で、関東ブロック女性農業委員等研修会が開催され、講演会や事例報告、パネルディスカッションが行われました。

県では各市町村の農業委員会で女性農業委員を複数以上にする取り組みが進められており、船橋でも複数の女性の農業委員や農地利用最適化推進委員が誕生することを大いに期待しています。

船橋産 簡単レシピ

油揚げの卵・人参・小松菜詰め煮

橋本 紀美子さん（山野） 考案

船橋産の人参と小松菜を使った彩りの綺麗な簡単レシピです。

材料

- 油揚げ……２枚
- 卵……４個
- 人参……1/２本
- 小松菜……２株

煮汁

- だし汁……カップ１
- しょうゆ……大さじ１・1/3
- 砂糖……大さじ１・1/3
- みりん……大さじ１・1/3
- 酒……大さじ１

作り方

❶油揚げは熱湯をかけ油抜きをし、２つに切りはがして袋状にする。人参は皮をむき、５㎝くらいの長さに切りさらに５㎜角に切る。小松菜はさっと茹で、５㎝くらいの長さに切る。

❷油揚げに卵を割り入れ、人参を花びらの形になるように入れ、小松菜を葉と茎の形になるように入れ、口を楊枝で留める。

❸煮汁の材料をひと煮立ちさせて②を並べ入れ、中火で15分くらい煮る。

❹味がよくしみたら火を止め、楊枝を除いて縦半分に切り、器に盛る。

編集後記

農業は自然の産物であるとつくづく感ずる今日この頃です。

地球温暖化が進む中、強い台風が相次ぎ農業被害が多発するなど、自然環境により農業経営が大きく左右されることが増えてきています。昨年は台風の強風により「塩害」という新たな被害も発生するなど、思いもよらない苦労をしました。昨年11月の船橋市農水産祭「都市農業ＰＲ」でも、その影響で出品ができなくなったケースが散見されました。

都市農業において、農地は災害時の避難場所など、さまざまな役割を果たしています。農業経営の危機は、こうした市民全体の利益を損なうことにもなるため、新たな農業被害対策が強く望まれます。